(社)日本建築美術工芸協会　2011.03.

(社)日本建築美術工芸協会
No.59 2011.3.

CONTENTS

aaca 第 22 回 設立記念会
第 20 回 AACA 賞・第 9 回芦原義信賞総評 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第 20 回 AACA 賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2,3

第 9 回芦原義信賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

AACA＋7人 exhibition vol.4 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

aaca 建築と文化を語る夕べ
第 23 回 aaca 交流講演会 羽田空港国際線ターミナルビル ・・・・・・・・・ 6,7
杉谷 文彦 氏（株）梓設計 代表取締役社長
鶴田 英治 氏（株）梓設計 有吉スタジオ

第 9 回 a.a.c.a シナジー展 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

第 5 回 aaca 静岡地区建物視察会
aaca 視察会に参加して ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

第 174 回 aaca フォーラム
石丸繁子俳句書 17 文字のアート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
石丸 繁子 氏 書家

第 39 回芦原義信記念杯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

新入会員・会員の移動・その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第22回設立記念会

開催日：2010年12月7日（火）
会　場：建築会館1階ホール
主　催：（社）日本建築美術工芸協会

あいさつ

中島会長

中島会長　開会に先立ちまして本日は文化庁鈴木文孝様の御出席を頂き御挨拶を戴きます。

さて一昨年設立二十周年に当たり、理事の方をはじめ皆様方の御協力で成果を挙げる事ができました。早いもので本日は二十二周年を迎える事になりました。特に本年は法人改革をはじめ・気象・世界情勢・我が国の政治環境等時代の多くの変革期を迎えると思われます。過去のことで恐縮ですが、1988年11月28日に社団法人の認可を頂き建築会館で盛大に記念会を催しましたが、その時は出席者の方々は猪熊弦一郎、岡本太郎先生をはじめ、丹下、前川先生等多くの知名人の方々にお会いでき興奮いたしました。

本年も間もなく新年を迎えますが、皆様と共に協会の益々の発展を願って挨拶とさせていただきます。

鈴木文孝氏

文化庁文化部芸術文化課　課長補佐　鈴木文孝氏　社団法人日本建築美術工芸協会第22回設立記念会および協会賞表彰式の開催にあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。まず、この度栄えある各賞を受賞されます皆様方に、こころからお祝いを申し上げます。皆様はすぐれた芸術的総合的環境と景観形成に寄与されたといった点が今回の受賞に繋がったと伺っております。この度の受賞を契機に、今後ますますご活躍されることを期待しております。社団法人日本建築美術工芸協会は、昭和63年の法人設立以来、今回の協会賞を初め、講演会や研修会などの開催を通じてわが国の建築美術の発展に大きく貢献されてきました。これもひとえに本日ご参集の皆様方のご尽力の賜物であり、深く敬意を評する次第であります。わが国は戦後大きく経済発展を遂げましたが国民の多くが物の豊かさよりも心の豊かさをますます希求する時代になっていると思います。このような心の豊かさをめざして文化芸術を創造し、享受し、文化的な環境の中で生きる喜びを見出すこと、これは人々の変わらぬ願いであります。文化庁におきましても文化芸術の振興のために、様々な施策に取り組んでおりますが、社団法人日本建築工芸協会はじめ関係者の皆様方におかれましても、今後ともわが国の文化芸術の発展にご尽力をいただけますよう心からお願い申し上げます。結びに、本日、受賞されました皆様方の今後益々のご活躍と、社団法人日本建築美術工芸協会の一層の発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

第20回AACA賞・第9回芦原義信賞総評

選考委員長	澄川喜一	選考委員	小倉善明
選考副委員長	岡本　賢	〃	藤江和子
選考委員	加藤貞雄	〃	近田玲子
〃	村井　修	〃	芦原太郎

総　評

第20回を迎えるＡＡＣＡ賞・第9回の芦原義信賞は、近年テレビ報道にも取り上げられる様になりこの賞の社会的評価が益々高まって来ました。本年もＡＡＣＡ賞・芦原義信賞あわせて33点の応募作品があり、各々大変レベルの高い力作が揃い審査が難行いたしました。第1次審査会では厳しい議論の中から12点の現地審査対象作品を選定し、2～3名の審査員が担当し現地で建築主・設計者・施工者から熱のこもった説明を受けました。1ケ月間に亘る現地審査を経て第2回審査会が開催され各作品毎の現地審査担当審査員による論点・評価が示され審査員全員による質疑・討論が行われ長時間の議論の果てに最終的には審査員全員の投票によってＡＡＣＡ賞以下の賞が選定されました。

ＡＡＣＡ賞本賞に選ばれた当間高原リゾートベルナティオは、素晴らしい環境の中のリゾート施設に新たに増設された結婚式場で円形の水盤の中にシンプルな鋭角の造形を浮かべ、プリントされた布地による内部空間は柔らかな光に包まれた浮遊する様な空間で水と光との絶妙な構成によってそれ自体が芸術作品として仕上がっている事に多くの審査委員の感銘を得ました。

優秀作品の2点は、両作品共木材をテーマにした建築作品で全く異なったアプローチでありながら木の新しい魅力を引き出しています。特別賞の2作品はＡＡＣＡ賞のもう一つの意義である復元・修復に光を当てた作品で共に東京を代表する場所でのランドマークとしてその場所の文化的遺産ともなるべき存在に建築を高めた事を評価されました。

芦原義信賞に選ばれた2作品は賞にふさわしい若々しい感性の溢れる作品となりました。共に素晴らしい景観・環境の中でランドスケープと一体となった建築空間が人々の心を和ませています。

建築や造形作品が全く新しい体験を人々に与え新しい感動を呼び起こす大きな力になる事を改めて実感させてもらえる有意義な審査会でありました。ＡＡＣＡ賞・芦原義信賞にご応募頂いた多くの方々に感謝申し上げ、また今後のご支援をお願いしまして審査講評と致します。

選考委員長　澄川喜一

第 20 回 AACA 賞

当間高原リゾートベルナティオ　la Sala / FIORIA

作者：鹿島建設株式会社一級建築士事務所　澤田英行
NUNO　安東陽子
岡安泉照明設計事務所　岡安　泉

円形水盤上に、今飛び立たんとする四角錐が絶妙のバランスで爪先立つような佇まい。その屹立する一面が解放されて、三角多面体が空気や光を含んで空間を形成し軽やかに在る。内部は此の土地で親しみ愛でられるカキツバタの花冠と雪の結晶からイメージされ紐解かれた六角形の紋様が隅々にまで施されて微妙な透過の濃淡を生んでいる。それは真っ白なオーガンジーに、紋様が陽光に輝く雪の表面のような特殊技術によりプリントされた布である。精緻に組まれた木骨に巧妙に埋め込まれたＬＥＤの光によって、微かにきらめき浸透させながら繊維を透した光の解像度を微妙に変化させて新たな濃淡の表情を浮かび上がらせ、無限のグラデーションを内包する空間となっている。溶け出ていた光の形は落日とともに表出し、水滝の光と対峙してやがて漆黒の円盤上に屹立する。幾何形態の集合の造形は、建築、テキスタイル、照明デザイン、木工技術の密實なコラボレーションによって、緊張感と優しさ、精密さ、華やかさが一体となって美しく感動的。ＡＡＣＡ賞に相応しい珠玉の空間である。

藤江和子

優秀賞

国際教養大学　図書館棟

作者：仙田　満（仙田　満＋環境デザイン研究所）

秋田市の南にある、講義はすべて英語、各学年 150 人が、全員寄宿生活と海外留学をしなければならないという、独特の教育システムの大学のシンボルとして建てられた図書館である。鉄筋、鉄骨のＲＣと木造の混合構造だが、目に見える限りは木造のみ。6 本の高さ 13 メートルの集中柱を中心に、外壁も含めてすべて地元の秋田杉で、放射状に広がる、むき出しの屋根架構の、から傘の骨組みを複雑にしたような木組みのディテールが美しい。300 の閲覧席が 1 メートル段差を設けた 3 層のフロアに整然と配置されている。

図書館にはきわめて珍しいこの段差によって、1500 ㎡というスペースに、実にゆったり感が生まれ、10 万冊の蔵書、24 時間、年中無休という図書館に居心地よさを与えた。とりたてていうべきアート・ワークがあるわけではない。しかし伝統的な組み手など手わざを生かし、周辺の自然のたたずまいを取り入れた、作者の“芸術心”がこの木の空間にみなぎっている。

数々の実績ある大家が、あえてこの賞に挑戦した心意気にも感服する。

加藤貞雄

木材会館
作者：株式会社　日建設計　山梨知彦・勝矢武之

木材流通の中心、新木場に、東京木材問屋共同組合の拠点として建てられた。近くを走る電車の車窓からも太陽の光を受けとめた檜の角材の外装の柔らかい色、木材の質感までがはっきりとわかるデザインの建物である。耐火性能の問題をクリアーし、檜を中心に 1000 ㎥以上の木材を、コンクリートと鉄の構造体を覆った外装、内装、構造材として使っている。角材をボルトで面材となるよう繋ぎ、檜のオブジェ、檜舞台、西日除けの大きなシュルフなど、簡潔で無理のない形をつくりだした。圧巻は 7 階の檜ホールである。伝統的な継手工法に現代的なボルト締め工法を組み合わせて、12 ㎝の節だらけのありふれた安い角材から大空間を支える巨大な構造材へと変身させた。黒ずみも自然がつくり出す日本の風景の一部であると考え、都市から失われて久しい木材による懐かしい景色の復活に挑んだ設計・工事関係者、木材問屋共同組合の見事な挑戦であった。

10 年後、20 年後が楽しみである。

近田玲子

特別賞

三菱一号館と一号館広場
作者：株式会社　三菱地所設計　取締役社長　小田川和男

旧三菱一号館は1894年（明治27年）に竣工した丸の内最初のオフィスビルである。その後、戦後の高度成長期にレンガ造のオフィスは次々に姿を消し、昭和43年に旧三菱一号館は姿を消すにいたった。近年丸の内地区は、丸ビルの建て替えを始め、戦前戦後に立てられたオフィスビルの多くが新しく立て替えられ、現在世界有数の超高層オフィス街区を形成するにいたっている。

街区整備の一環として、三菱一号館が、以前建っていた場所に当時用いられた建築技術を踏襲し、建設時の姿そのままに復元、美術館として活用され、あわせて一号館と一体になった広場が新しい都市の憩いの場として作られた。

復元された建物には、建設当時の建築と美術工芸の見事な融合を見ることが出来る。又新しく造られた緑豊かな英国を思わせる庭園は、訪れる人たちに建築と一体となった豊かな安らぎの空間を提供している。

新しい街づくりにあたり復元という手法により作り出した空間は、過去から現在につなげる豊かな文化を発信する点で非常に意義深いと考える。

復元の持つ特別な意味合いを含めてこの建築および広場は、ＡＡＣＡ賞に値するものである。

小倉善明

和光本館リニューアル
作者：清水建設株式会社

東京を代表するだけでなく、日本を代表する都市空間である銀座４丁目の象徴として、この建築は日本人の記憶から消す事はできない。

建築が単なる商業施設としての機能を越えて社会的・文化的資産としての価値を最大限に体現している。その意味を重く捉えて、いつまでもこの建築をそのままの姿で存続させようとするクライアントの強い意志と、それを実現させた高い技術力は賞賛に価する。渡辺仁による当初の設計のイメージを極力忠実に復元させ、耐震補強の為の構造部材の存在を全く感じさせない様に処理された、卓越な技術力は評価される。そして創設当時の姿に復元された居室が時を越えて上質な空間を感じさせてくれる。

クライアントと設計・施工が一体となって完成させた建築が優れた文化遺産として世紀を越えて人々に感銘を与え続ける。

岡本　賢

第９回芦原義信賞

■ ＤＮＰ　創発の杜　箱根研修センター第２及び管理棟

作者：石原健也／デネフィス計画研究所・千葉工業大学
廣瀬俊介／風土形成事務所・東北芸術工科大学
田賀洋介／田賀意匠事務所

この建物は緑の深い箱根の傾斜地に立つ建物である。主要な部分である研修棟は、延べ4000㎡に近い大きな施設であるが、国立公園法による制約を逆手にとって傾斜地になじませた建築にすることに成功し、そのスケールを感じさせない。2つの研修施設と56の宿泊室、食堂、駐車施設等の配置を傾斜面に沿いそれを生かして配置しつつ、各施設からは箱根の緑あふれる環境を楽しめる眺望を確保している。

複雑な内容の機能を傾斜地に埋め込む作業は、非常に大変だったと思われるが、最上階の食堂の前庭となっている芝生に覆われた柔らかな傾斜屋根に見られるように、パズル解きのような計画のもとに完成度の高い建築としている。研修施設は多くのスタディの結果であるが、クライアントと建築家との見事なコラボレーションにより優れた空間環境と機能を併せ持つものである。

管理棟は機能重視の建築で、表現は控えめである。このデザインは全体の建築群のバランスを意識してのようだ。

これらの建築群と環境を結び付けるものは、綿密に考えられたランドスケープデザインである。建築とランドスケープデザインの連携がこの施設の優れた点の基本にあることは間違いない。

小倉善明

優秀賞

■ 富士山環境交流プラザ

作者：大成建設株式会社　一級建築士事務所　川野久雄

富士山麓の朝霧高原にほど近い場所に開発された工業団地に併設されたコミュニティ施設で、工業団地開発の条件として計画され市に移管された施設である。市民との様々な対話の中から市民活動の拠点となる様な機能が求められ、アートギャラリー、工房、会議室、情報コーナーなどが計画された。

恵まれた自然環境を最大限に生かす為にどこでも富士山の存在が感じられる様な配置とし、L字型に囲まれた中庭を中心に全ての施設が展開される構成となった。

アートギャラリーや工房は中庭と一体となった展示空間となり正に建築と美術が一体となって響きあっている。蓄熱壁やクールチューブ等様々な省エネに対する配慮や、高原を飛ぶハングライダーの翼を想わせる屋根の形態デザインから若々しい設計者の感性が感じられ、最後まで芦原義信賞を争った。

岡本　賢

AACA +7 exhibition vol.4

point

2010 10/18mon - 10/31sun
11:00 - 19:00 (lastday -17:00)

point

７人のaaca会員による展覧会です。

会　期　２０１０年１０月１８日(月)－１０月３１日(日)
　　１１：００～１９：００（最終日は１７：００まで）
会　場　建築会館　ギャラリー
主　催　aaca　日本建築美術工芸協会

岡村 光哲

記憶の隙間から洩れる光を求めて、
自分自身の存在を確かめようとしている。

神代良明

物質が持つ非情さと確からしさが奏でる力学に、
人為的な時間軸を持ち込むことの意味を探っています。

塩野麻理

異素材を組み合わせてかたちにすることで、
そこに出現する魅力的なマチエールやバランスは
色々な言葉やリズムとなる可能性を感じます。

高濱 英俊

いつも私たちの日常生活の中に
体感彫刻の必要性を強く感じながら制作しています。

辻野 榮一

相反する光と闇の私は闇の方に心引かれます。
それを素直に形に出来ればと思っています。

渡邊 早苗

日記をつけるように絵を描いています。
記憶に残ったものの断片的な部分を
絵の具を使ってかたちにしています。

庄　漫

光がプリズムを通って七色の虹になるように、
モノクロの画面をとおして
光と色が想像の世界で広がることを望んでいます。

第 23 回 aaca 交流講演会「羽田空港国際線ターミナルビル」

～日本と海外を「より早く便利に」「より安心に」「よりやさしく」結ぶ「快適都市空港」の実現～

開催日：2010 年 10 月 28 日（木）
会　場：三井不動産アーキテクチュラル・エンジニアリング株式会社会議室
主　催：（社）日本建築美術工芸協会

講師：杉谷 文彦氏（株）梓設計 代表取締役社長
　　鶴田 英二氏（株）梓設計 有吉スタジオ

Ⅰ　梓設計の質実優美な建築に対する取り組みの紹介

（1）梓設計創業者、清田文永のご紹介と名前の由来、社名「梓」に込めた思いをご紹介する。

創業者・清田文永　経歴
明治 43 年　大分県佐伯市に生まれる
昭和 10 年　早稲田大学理工学部建築学科　卒業
　　逓信省、大日本航空株式会社勤務の後
昭和 21 年　株式会社梓設計を創設
この間、昭和 28 年 4 月から昭和 33 年 3 月まで早稲田大学講師
昭和 57 年　没

羽田空港国際線ターミナル

杉谷氏

鶴田氏

“梓”に込めた思い

［社会への継続的な貢献］

事務所名を清田ではなく“梓”という故事に由来のある名称にしたのは、設立時から組織としての永続と継続的活動を考えていた。

［強い組織］

“梓”の木のごとく、力強くしなやかに時代を生き抜き、人びとに愛される組織にしたかった。

［建築に求めたもの］

作り出す建築も“梓”のごとく強靭かつ良質で、堅実に社会を支え、人々への優しさを持ち、美しい由来を感じるかたちを求めた。

“梓”の木

（2）梓設計の経営理念

「“梓”たる質実優美な建築を顧客の共感とともに実現し社会に貢献する。」として、“梓”に込められた建築と組織への思いをしっかりと受け継いでいます。

Ⅱ　羽田空港新国際線ターミナル　～設計コンセプトとその実現～

（1）設計概要について

・旅客ターミナルビル　地上 5 階建て
　延べ床面積　約 154,000 ㎡
　固定スポット　10

・空港利用者用駐車場　地上 7 階建て
　延べ床面積　約 67,000 ㎡
　約 2,300 台収容

（2）設計コンセプトについて

公共性、公平性、機能性、安全性、利便性などの求められる基本性能を満足した上で、羽田の強みを最大限生かした「海外に開く新しいゲートウェイ」を実現する。そのために日本と海外を、「より早く便利に」「より安心に」「より優しく」むすぶ「快適都市空港の実現」を設計コンセプトとした。

（3）設計コンセプトの実現について

「快適都市空港」を創出する以下の9つの取り組みを実際に出来上がった建物の写真を使って紹介する。

○　羽田の特徴的な景観を生かした、ランドスケープ、空間コンセプトの実現

「空」のイメージをメインテーマに、日本の豊かな自然景観、自然風土の中から生まれた日本の感性をデザインコンセプトに昇華し、首都圏の玄関性を演出、都市の中の大きな空(VOID)を創出した。内部空間では、ランドスケープとの共鳴と連続性をはかり、日本らしい佇まいを演出するために和の景観資源を利用した。

○　分りやすいゾーニングと旅客動線計画

アクセス交通機関とターミナルをダイレクトに繋ぐアクセスホールを設け、カーブサイドを単純で明快な構成とし、全体ゾーニングは、滞留が生じず、迅速で快適に移動できる、視認性の高い計画とした。動線は、直進性が高く、フラットで階層移動が少ない、交錯しない計画とした。

○　お客様のニーズをふまえた最適な旅客サービス

コンセッション、ラウンジ、ビジネスサポート施設の充実により、ゆとりの時間を提供可能な施設計画とした。また、ユニバーサルデザインの徹底をはかり、歩行支援施設の充実はもちろん、多様な障害に対する取り組みを実施した。短い時間で航空機に到達する為の迅速性の確保、それぞれの空間の快適性の確保にも取り組んでいる。

○　ユニバーサルデザインの追求

羽田空港の特性に合わせた、一歩進んだユニバーサルデザインを実現するために、運営と施設両面からの参加型ユニバーサルデザインを進めた。そして、この参加型ユニバーサルデザインにより今後もスパイラルアップ活動を行っていくこととしている。このために、設計段階からユニバーサルデザイン検討委員会を設置し、学識経験者、障害者等による検証を行い設計に反映した。

○　地球と人に優しいエコ・エアポートの実現

日本の玄関としてふさわしい「地球と人に優しいエコエアポートの実現」を基本コンセプトとし、環境要素７項目（1.大気環境、2.騒音・振動、3.水環境、4.土壌環境、5.廃棄物、6.エネルギー、7.自然環境）に対応した取組みを行っている。

○　万全な保安対策及び防災対策

航空機の不法強奪や人質行為、空港施設への強制侵入等々、空の旅の安全を脅かすような不法行為を未然に防ぐための高度な航空保安対策が、効果的かつ確実に行われるよう、施設面の整備を行なっている。

○　魅力ある商業施設計画

商業施設は一般エリアから出発コンコースまで１０５のショップとレストランが並ぶ一大エンターテイメント空間となっている。世界に誇る「Made In Japan」を提供する場、そして世界に向けた「新しい日本・東京」の発信地となるために。国際線旅客ターミナルでは「Made In Japan」～羽田Only One～をコンセプトに、すべての店舗を厳選している。

○　構内道路と景観に調和した立体駐車場

駐車場を南に寄せ、ターミナルビル前面に「空の森」と「富士見軸」を創出。駐車場を立体化しターミナルビルへの迅速なアクセスを実現する一方、構内道路の形状になじんだ柔らかな楕円形状の駐車場とし、壁面緑化による「空の森」との一体感を演出している。

○　フレキシビリティーの高い施設拡張対応

羽田空港国際線ターミナルは今回の供用開始をひとつのベンチマークとしてさらに発展していくものと考えている。ビル内部の更新性のしやすさに加え本館の更なる拡張、北ウィングの更なる延長などの再拡張にも対応可能な施設計画としている。

第 9 回 aaca シナジー展

開催日：2010 年 11 月 4 日～ 11 月 14 日
会　場：建築会館ギャラリー及びイベント会場
主　催：（社）日本建築美術工芸協会

シナジー展もいよいよ 9 回展になりました。今回はテーマ課題として横浜にある帆船日本丸を題材に、メンバーそれぞれの作品を合成写真で垂れ幕にして会場に帆のように吊るしました。建物のアートプランとは違う難しさと楽しさを疑似体験しました。中庭の展示を充実するため、今年から石彫の作家２人を迎えました。シナジー展も節目の 10 回展に向かってますます充実発展するよう期待して下さい。

彫刻／三木　勝

彫刻／関　孝行

彫刻／山本　桂

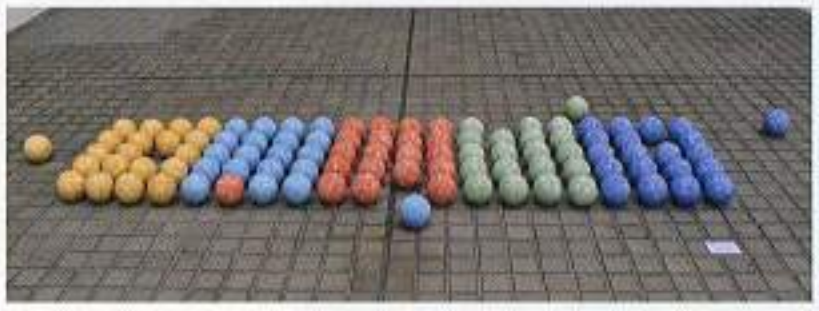
ケント・アルファ（株）

建築／川北　英

版画／長　はるこ

ステンドグラス／平山　健雄

プリスアート／浜崎　ペア



陶芸／片田　佳子

第５回 aaca 静岡地区建物視察会
aaca 視察会に参加して

開催日：2010 年 11 月 12 日～ 13 日
主　催：（社）日本建築美術工芸協会

ａａｃａ静岡地区建物視察会（参加者総数 28 名）は、平成 22 年 11 月 12 日（金）、13 日（土）の二日間にわたり静岡地区の建物視察を行った。

１日目は資生堂企業資料館と資生堂アートハウス、ヤマハ掛川工場のグランドピアノ製作工程の見学、ねむの木こども美術館、２日目は地球のたまご、秋野不矩美術館、芹沢銈介美術館、とらや工房と東山旧岸邸の計７ヶ所への視察となった。

２日目に訪れた地球のたまごは、ＯＭソーラー（株）の本部施設として 2004 年に建設され、その技術の情報発信の場として多くの見学者を受け入れている。地球のたまごという名前には、「この場から地球の役に立つようなものを孵化させていきたい」という願いが込められているそうだ。最新の技術が詰まった建物でありながら、スタッフによって苗・種から無農薬で育てているという地域在来の植栽達が、親しみやすい風景をつくりだしている。施設から去るバスの車中から、草刈りをしているスタッフの方々が見えた。環境、人の手と供に進化する力強さを感じる建物であった。

（文　株式会社梓設計　木村麻美）

秋野不矩美術館

東山旧岸邸

資生堂アートハウス

ヤマハ掛川工場

ねむの木こども美術館

芹沢銈介美術館

地球のたまご

とらや工房

第 174 回 aaca フォーラム
「石丸繁子俳句書　17 文字のアート」

開催日：2010 年 11 月 12 日（金）
会　場：ニュートーキョー数寄屋橋本店 9F ラ・ステラ
主　催：（社）日本建築美術工芸協会
講　師：書家 石丸繁子氏

11 月 12 日、松山在住で aaca の個人会員でもある、女流書家石丸繁子先生によるフォーラム「石丸繁子俳句書　17 文字のアート」がニュートーキョー数寄屋橋本店 9F ラ・ステラにて開催されました。

石丸氏は同郷である芝不器男と現在 NHK の番組「坂の上の雲」でも有名な正岡子規の句を題材に作品を制作されております。

“俳句書”という言葉は、石丸氏によって表現された、自身の作品表現名であり、文字の通り、俳句を書道で表現することで、不器男と子規との精神面での一体化を石丸氏がなしとげている、と感じることができるお話でした。

墨　額　紙　そして二人に対する石丸氏のエネルギーが一つの作品を作り上げている様子を伺うことができました。そして、夏目漱石と正岡子規との出会いや関係などの、歴史的に大変興味のあるお話をしていただきました。

また、ご本人のエネルギッシュな作家活動は、国内に限らず世界をかけめぐっておられます。

諸外国では理解されにくい、日本人の、昔ながらの精神や考え方を「俳句書」を通じて広めている石丸氏の活動は、今の日本には特に必要だと痛感いたしました。

当日は、関西や遠い四国からのお客様を含め、会場は満席の状況で、石丸氏の２時間にも及ぶフォーラムは無事に終了致しました。沢山のお客様にご来場頂けたこと、こころよりお礼を申し上げます。

フォーラム委員一同

書家　石丸繁子氏

石丸繁子氏プロフィール

愛媛県松山市に生まれる
大東文化大学文学部中国文学科卒業

2000 年	山口・「毛利邸毛利ミュージアム」「芝不器男俳句書道展」
	イタリア（ウルビノ）「現代日本芸術展」ウルビノ芸術大賞受賞
2001 年	スペイン（バルセロナ）「バトリョ邸芸術大展」ガウディ芸術大賞受賞
2008 年	松山市立子規記念博物館にて個展　「石丸繁子俳句書 子規と不器男」
2010 年	東京銀座画廊「るたん」にて個展　「アントレプレナー子規」

会場風景

会場風景

第 39 回芦原義信記念杯

開催日：2010 年 11 月 19 日（金）
主　催：（社）日本建築美術工芸協会

第３９回芦原義信記念杯は２０１０年１１月１９日（金曜日）御殿場にある東富士カントリー倶楽部にて実施されました。

当日は、富士山も全貌が見れるくらいの非常に良いお天気で、絶好のプレー日でした。そして芦原初子先生を始めとして、総勢２６名が集いました。

優勝者には持ち回りの優勝プレート（歴代の優勝者の名前が刻印されている）が芦原初子先生から手渡されました。

また、終了後、有志にて富士霊園を訪ね、故芦原義信氏のお墓参りをいたして参りました事も報告させていただきます。

（文　不二窯業株式会社　森田高年）

新入会員・会員の移動・その他

個人会員

（2010年10月～2011年3月入会 敬省略）

石原健也	〒101-0041	東京都千代田区神田須田町1-32 2F	☎03-5297-5741	㈱デネフェス計画研究所
酒井春生	〒104-0031	東京都中央区京橋2-8-5 京橋富士ビル	☎03-3561-5050	㈱トラベルプラン
深田充夫	〒520-3232	滋賀県湖南市平松553-39	☎0748-72-6660	

法人会員

織部製陶株式会社　代表取締役社長 増田憲治　担当／増田憲治
〒660-0885 兵庫県尼崎市神田南通3-69-2 ☎06-6419-4441

会員の移動

加藤和久	個人会員氏名変更：秋山 泉　退職の為
渡辺 仁	〃　：渡辺 明　逝去の為
株式会社 INAX	住所変更：（新）〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町16-9 箱崎ビル ☎03-4355-7901
	担当窓口変更：（新）株式会社 サンウェーブマーケティング 首都圏第一プロジェクト統括部 統括部長 野中 敦
清水建設株式会社	担当窓口変更：（新）〒105-8007 設計・プロポーザル統括 主査 道江紳一
株式会社 TAKプロパティ	担当窓口変更：（新）デザイン事業部 事業部長 村井久美 ☎03-3401-2828
株式会社 日本設計	担当窓口変更：（新）プロジェクト統括本部 副本部長 山懸 充
日本陶業株式会社	代表者名変更：（新）代表取締役社長 川口勝彦
株式会社 タウンアート	代表者名変更：（新）取締役 吉田祐美
	担当窓口変更：（新）富樫和由
保土ヶ谷バンデックス建材㈱	代表者名変更：（新）代表取締役社長 小花公男
	担当窓口変更：（新）岡本忠士

aaca理念

建築家、美術家、工芸家その他の人びととの連携と協力により、豊かな芸術的環境の創造と保存を図り、これを通じて日本文化の向上、発展に寄与する。

会員投稿記事募集中
会員の皆様の作品紹介、活動報告、展覧会、個展等のご案内
企業の広告・出品展等のご案内を会報に掲載いたします。
詳しくは事務局にご相談下さい。

会報について
会報へのご意見、ご希望をお寄せ下さい。（広報委員会）

発　行　社団法人 日本建築美術工芸協会
〒108－0014
東京都港区芝 5－26－20 建築会館6階
Tel 03－3457－7998
Fax 03－3457－1598
Url http//www.aacajp.com
E-mail info@aacajp.com

編　集　広報委員会
長谷川 亨　石田 眞人　北村 孝昭
瀬川 秀之　竹生田 正　中村 弘子
野口 真理　山崎 輝子
事務局

印　刷　美和野印刷株式会社

第15回 瓦屋根設計コンクール 甍 iraka 賞

《新設》第1回 甍賞学生アイディアコンペティション

古来より日本の美しい風景を織り成してきた「粘土瓦」。私どもは、この素晴らしい素材「粘土瓦」が生むさらなる建築美を求め、数年に一度、「粘土瓦」を使用した建築物や構造物の優れた実施例を表彰する「甍賞」を開催しております。
皆さまの自由な発想で現代に放つ、粘土瓦の新たな魅力との出会いを楽しみにしております。

第14回金賞受賞作品

■募集期間（募集要項に沿ってご応募ください）
平成23年2月1日～4月30日（4月30日消印有効）

■募集要項のご請求・応募作品提出先
甍賞事務局　〒444-1323　愛知県高浜市田戸町一丁目1番地1
全国陶器瓦工業組合連合会高浜事務所内
［TEL］0566-52-1200　［FAX］0566-52-1203
［E-mail］info@kawara.gr.jp

● 募集要項・応募用紙は下記ホームページからもダウンロードできます。
甍賞事務局（愛知県陶器瓦工業組合）　http://www.kawara.gr.jp/
全国陶器瓦工業組合連合会　http://www.zentouren.or.jp/

題字書／岡本光平

■審査委員
委員長　森　暢郎　（日本建築学会副会長／㈱山下設計取締役会長）
委　員　栗生　明　（日本建築家協会／千葉大学大学院教授）
委　員　内田文雄　（日本建築士会連合会／山口大学大学院教授）　他6名

設計部門募集要項

■課題
国内産粘土瓦を屋根又はその他の部位に使用した建築設計や環境デザインの優れた実施例で、応募時点において完成後1カ年以上（7年以内まで）経過している建築物及び構造物で、「住宅」「一般」の部門別に審査します。
- 住宅部門（一戸建、併用住宅、集合住宅等）
- 一般部門（屋根以外の新分野使用・環境デザイン等を含む）

建物の様式、大小、瓦の産地、形状等は制約いたしません。すでに発表されている作品でも結構ですが、過去の甍賞に応募された作品は応募出来ません。

■募集対象
設計事務所及び設計者（一般部門は作品を実質的にデザインした者を含む。）

■提出物　応募カード・設計図面・建物及び構造物のカラー写真
応募カードはご請求いただくか、HPよりダウンロードしてください。
設計図面は、平面図、立面図、屋根伏図、配置図、瓦施工ディテール等をA3横サイズ5枚以内にまとめてご提出下さい。

■賞
- 金賞（2点）　賞状および・副賞50万円
- 銀賞（1点）　賞状および・副賞20万円
- 銅賞（1点）　賞状および・副賞10万円
- 景観賞（1点）　賞状および・副賞10万円
- 佳作（10点程度）　賞状および・副賞3万円

学生部門募集要項

■課題　「都市における『瓦』を用いた新しい空間提案」
東京をはじめとする都市部では、「瓦」を見る機会が少なくなりました。均質化が進む都市環境の中で、「瓦」の持つ素材の可能性を活かし、これまでにない空間表現により、21世紀の日本の原風景が提案されることを期待しています。空間の大きさや用途などはすべて自由です。

■応募資格
国内外の大学院、大学、高等専門学校又は各種専門学校で建築を学んでいる者(学生)。　グループによる応募も可。

■提出物　応募カード・応募作品
応募カードはご請求いただくか、HPよりダウンロードしてください。
応募作品は、A1サイズ用紙1枚に、コンセプト、PRポイント等を記載し、平面図、配置図、立面図、パース、模型写真、その他詳細図など設計意図を表現するのに必要と思われるものを各自選択して描いてください。縦使い、横使いを含めてレイアウトは自由。
表現方法は、鉛筆、インキング、着色、CGや写真などいずれも自由。

■賞
- 金賞（1点）　賞状および・副賞10万円
- 銀賞（1点）　賞状および・副賞5万円
- 銅賞（1点）　賞状および・副賞3万円
- 佳作（5点程度）　賞状および・副賞1万円

主催／全国陶器瓦工業組合連合会　(社)全日本瓦工事業連盟

後援／経済産業省、国土交通省、(社)日本建築学会、(社)日本建築家協会、(社)日本建築士会連合会、(社)日本建築士事務所協会連合会、(社)日本建築美術工芸協会、全国いぶし瓦組合連合会、㈱日本屋根経済新聞社

陶壁画デザイン

高部 多恵子

（日本建築美術工芸協会会員）

タイトル：　未来への架け橋　・サイズ　7.2m×2.4m

設置場所：　㈱）NIPPO総合技術センター（新日本石油グループ）／さいたま市

制作施工：　大塚オーミ陶業(株